

令和3年度 地域連携教員研修 実施報告

実施日：令和3年11月16日（火）

新型コロナウイルス感染拡大防止のため、オンライン研修として実施しました。

○ 講話・演習

「連携活動への気運を高めるために～校内研修会の計画・立案～」

総合教育センター生涯学習部職員

地域連携教員には、プランナー・コーディネーター・アドバイザーの3つの役割があります。今回はプランナーとしての役割「学校と地域が連携した取組の総合調整に関すること」の「地域連携に関する校内研修の企画・運営」について話がありました。受講者は地域連携活動に関する校内研修会の意義や内容などを聞いた後、ワークシートを用いた個人ワークに取り組みました。



○ 情報交換・研究協議

「より効果的な地域連携活動を目指して～学校と地域の連携活動を充実させるために～」

総合教育センター生涯学習部職員

校種ごとのブレイクアウトセッションでは、自校の地域連携活動の様子を踏まえ、個人ワーク時に作成したワークシートについて報告し、それぞれが考えた校内研修会について意見交換しました。受講者同士がアイデアを出し合うことで、校内研修会を実施するイメージを持つことができたようです。



○ 事例発表

「学校と地域がつながる取組～地域連携教員と地域コーディネーターの活動の実際～」

小山市立若木小学校 教頭 上野 浩子 氏

日光市立足尾中学校 教諭 小倉 孝司 氏

県立那須高等学校 教諭 竹林 悠 氏

県立益子特別支援学校 教諭 増淵 友理 氏

宇都宮市立明保小学校 地域コーディネーター 大島 和枝 氏

学校と地域の連携推進セミナーの受講者と一緒に、各校の事例と地域コーディネーターによる活動の実際について、発表を聞きました。各校の取組と今後の方針、課題の対応など、教員、コーディネーター、行政職員それぞれが参考になる内容でした。

また、地域の視点から地域連携活動に触れた大島氏の示唆に富んだ話から、学校と地域が連携・協働した活動につながるためのポイントと児童・生徒にとって学びのある効果的な取組となる方法を知ることができました。



○ 情報交換・研究協議

「つながりを深め、活動をより充実させよう」

総合教育センター生涯学習部職員

学校と地域の連携推進セミナーの受講者ともにブレイクアウトセッションで各学校の地域連携活動の状況について情報交換を行い、地域側の視点を意識した活動について協議しました。地域連携教員、地域コーディネーター、行政職員がそれぞれの考えを述べることで、お互いのニーズなどに気づき、これからの活動の参考となったようです。



☆受講者の声（アンケートから）

- ・午前中の校内研修会の企画・立案を受講し、これを機に本校でも校内研修会が実施できるよう、計画しようと思った。
- ・学校全体として地域連携活動の意識を高めていけるよう、校内研修会を行うことができればよいと感じた。
- ・他校の事例を聞き、参考になることが多かった。また地域コーディネーターの話聞き、地域側の視点を意識する必要性について考えることができた。
- ・初めて地域連携教員となり、役割や意義について学んでいるところである。研修に参加し、今後自分が果たすべきことが明確になり、自身のモチベーションにつなげることができた。

研修内容の詳細に関するお問い合わせは栃木県総合教育センター生涯学習部まで
TEL:028-665-7206 e-mail:skc-syougai@pref.tochigi.lg.jp